昭和二十一年度

業務行程報告

滋賀縣立長濱工業試驗場

目次

第一章 緒說
第一 沿革……一頁
第二 位置……一頁
第三 敷地及び營造物……一頁
第四 職員及び傭員……三頁
第五 場員出張……四頁
第六 收發文書件數……五頁
第七 來場者……五頁
第八 經費……五頁
第二章 織維
第一 概況……一三頁
第二 試驗研究指導……一五頁
第 織維工業振興座談會……二二頁
第三章 機械

1 敷地総坪数 三、五〇〇坪

2 建物総坪数 延 一、〇〇八坪

二 營造物

名稱	延坪數	構造種別	備考
本館	九〇	木造瓦葺平家	既設
工場	一八〇	同	同
寄宿舍	一五五	木造瓦葺二階建平屋	同
附屬建物	五二	同	同
倉庫	四〇	同	同
機械工場	一二四	同	七分通完成
紡績工場	三七四	同	本年度内完了見込
織工場	四三	同	二十三年度中完了見込
木工場	三六	同	同
本館	三八	同	二十三年度中完了見込
附屬建物	一七六	同	既設本館に增築
倉庫	一二一	同	二十三年度完了見込

第四 職員及傭員（三月三十一日現在）

任命年月日	職名	氏名
昭和二十二年三月四日	傭員 地方技官	木下吾一
昭和十五年八月二十四日	次長	田中寅次
昭和二十一年七月二十三日	同 地方事務官	北村彦一
昭和十五年十月十日	地方技官	井伍一
昭和十六年四月三十日	同	河田研
昭和二十一年六月二十日	同	小川藤藏
昭和二十一年四月一日	同	坊晨佐太郎
昭和二十一年七月十日	同	土井良次郎
昭和二十一年六月一日	工手	石居重三
昭和二十一年六月十日	同	松邊信義
昭和二十一年九月十日	同	廣木嗣治
昭和二十二年三月三十一日	助手	今井信次郎
昭和二十一年五月十五日	工手	澤居梓三

任命年月日	職名	氏名
昭和二十一年六月十五日	工手	森勇
昭和二十一年十一月二十一日	右同	松田邦松
昭和二十二年一月二十五日	右同	中川末男
昭和二十一年四月一日	右同	田中耕太郎
昭和二十一年十月二十二日	右同	杉田利孝
昭和二十一年十二月六日	右同	奥柯駿一
昭和二十一年四月一日	右同	吉内隆夫
昭和二十一年九月十九日	雇	西島富美子
昭和二十一年十一月二十六日	小使	北村博

第五　職員出張

出張事務	庶務		庶務		庶務		庶務	
	回數	日數	回數	日數	回數	日數	回數	日數
合	四一	四七	二	二	四三	四九		

會計、物品管理							
參事、庶務部部長	二八	三〇	三	六	三一	三六	
調査、調査、指導	二	四	一	一	二	四	
官制類歸入	五條	六一	一	一	五五	六二	

第六　收發文書件數

文書の收受及發送件數左の如し

收受件數　二三一件　發送件數　一七七件

第七　其他

高等其他官吏	二七名
視察及見學	約一五〇名
接拶等其他	約四〇〇名

第八　經費

一、歲入經常部

科目	訓定額	收入濟額	收入未濟額	備考
使用料及手數料	五、五六四圓一〇	五、五六四圓一〇		此の訓令は廢止となる

科目	調定額	収入済額	収入未済額
使用料	一、〇五〇圓〇〇	一、〇五〇圓〇〇	
設備使用料	一、〇五〇〇〇〇	一、〇五〇〇〇〇	
手数料	四、五一四一〇	四、五一四一〇	
加工手数料	四、五一四一〇	四、五一四一〇	
雑収入	六、二一〇〇〇	六、二一〇〇〇	
物品賣拂代	六、二一〇〇〇	六、二一〇〇〇	
不用品賣拂代（廠車賣拂代）	六、二一〇〇〇	六、二一〇〇〇	
産賣代	一	一	
経常部計	一一、七七四一〇	一一、七七四一〇	

説明書

使用料一目下板橋工場増築中にして現板橋工場は増築工場用材板板の置場たらざるを得ず、多数の場所を借にして業者に利用を頼ふるの余儀なかりしため収入少し

手数料一板維部は未だ社業出来ず現在市内にて工場を使受け事ら板板の据付工場改造等準備に専念せるため収入無く機械部も前記理由並びに新築工場の歴拂作業等のため業務に表れてゐる収入少し

物品賣拂代一官場の如く新設の所に於ては設備備品等多額多額然も新規購入に依るの外なきも市價は既定賦務管を通じ上廻り到底及ぶところに非ず依つて出来得る限り日給日用の方針にて進みたるため金額としての収入なし

二、歳出経常部

科目	当初予算額	繰越予算額	予備費充当額	計	支出済額	翌年度繰越額	不用額	備考
縣職員賃	三五七五円	△八六、二九九 九、七一六	一	八〇一五八円	八〇、一五二五九円	一	五四一円	廉
傭給々料諸給	三五七五	△八六、二九九 九、七一六	一	八〇、一五八	八〇、一五二五九	一	五四一	
傭給	一、一九三	△三一、四四六 九、七一六	一	二二、九二三	二二、九二一三三	一	一六八	
事務員給	一	二、七一六	一	一、九九四	一、九九四〇〇	一	一	
技術員給	一、一九三	二八、七三〇	一	二〇、九二三	二〇、九二七三二		一六八	

科目	豫算額	決算額	差引超過額	不用額	摘要
旅費	九七五円	三七〇八円	一	一一二	
手當	一四〇七	五〇〇六四	一	二六一	
手数料					
本俸加給					
動物改良手当					
一時金					
物價手当					
動産統制手當					
賠償手当					
恩給年金手当					
賞與					
勤業費	三〇二、四三二	八二、六九七		三五六、一六九	三三、七七〇八
工業試驗費	三三、四三二	八二、六九七		三五六、一六九	三三、七七〇八
雜給	三一五八	二九、六三七		三二、七八三	三、七二三八
囑託					四三八六、三五
助手					三〇八、〇〇
雇員					一、五九、六七
工手					三三八、一五、六〇
小使					一、七二、六八
旅費	九四九			九四七〇	九四七〇
賞與		五五二		五五二〇〇	五五二〇〇
手當	三〇〇〇	五二五一八		五五、五八	五五四五八九
物價手当					一三五〇〇一
廚時手当					二、三〇〇〇

科目	備考	本年分決算額	本年分決算額	計	前年分決算額	前年分決算額	備考
家族手当							
越年手当							
賞与給							
場費		二九五、三三七	二八、九五〇				
備品費		一、〇〇〇		七、八一七、八〇			
消耗品費		三、七五〇		一〇、七七〇			
職員給料		一、〇五〇		一八、一九八、五			
通信運搬費		八、六二		二、九五一、〇〇			
賄費		一、三一〇					
被服費		七二					
作業費		二、六三六、九	二八、九五〇	二四、三七六、一一	二、六七六、三四	二、六七六、三四	
雑費		一、九〇〇		六、六四二、八九			

諸費										
	一、〇〇〇									
財産費	一、〇〇〇									
修繕費	一、〇〇〇									
経常部計	三五、八九七	二六、九九八	二四、四三六、九	四三、三七〇	三八、八四二	一四九	四八四、九三			
歳出臨時部										
勧業費		九二、八四二		九二、八四二	九二、八四二	二、六七				
商工業費		七二、二四二		七二、二四二	七二、二四二	二、六七				
工業試験場建設費		七二、二四二		七二、二四二	七二、二四二	二、六七				
設備々品費		四、七五五		四、七五〇〇	三、八九二、三〇					
設備機械購入費		一、五〇〇		一、五〇〇〇	四、一四〇〇					
設備之見類購入費		一九、九三二		一九、九三二〇	三、八四一、三					

科目	當初令達額	追加令達額	追加令達額	計	支出済額	不渡額	不渡額	備考	摘要
機械購入運搬費		三八、三三八		三八、三三八〇〇	三八、三四〇〇				
機械設備工事費		五〇〇〇〇		五〇〇〇〇〇〇	一八四五五〇				
起工式費		三七一七		三七一七〇〇	三四七五〇〇				
産業転換指導費		一五、〇〇〇		一五、〇〇〇〇〇	一五、〇〇〇〇〇				
技術講習費		一五、〇〇〇		一五、〇〇〇〇〇	一五、〇〇〇〇〇				
勤業諸費		五六〇〇		五六〇〇〇〇	五六〇〇〇〇				
年末物件処理費		五、六〇〇		五六〇〇〇〇	五六〇〇〇〇				
福岡部計		九二、八四二		九二八四二〇〇	九二八三九三		二六		

第二章　織　維

第一　軍需より民需に一大轉換をしたる本年度は中小工業者に於ても依然として渾沌たる業態を續け之れに對し官場として転業者に對し一大指針を與へるため講演會、懇談會を開催したり其他商工會議所工業組合連絡協議會技術的練成指導に萬全を期し終戰後くじかれたる轉業者の奮起を振興致さむと努力す

第二　試驗研究指導

一　實地指導

1　業者の直接實地指導

本年度は戰爭中一部を除き民需より軍需に百八十度の轉換を餘儀無くされ終戰後平和産業に復歸せんと希望する業者續出し之等業者の希望熱意に即應する指導の萬全を期しつゝあり

2　メリヤス工業の實地指導

現在繊維窮狀より觀て特にメリヤス工業は全國的に其の生産は實に微々なるものであつて内需、滿蒙重向輸出向製品の重點

的指導に乗出したところ業者の熱意ある希望に今般し其の成果は着々効を奏し新設工場續出し發展の一路を辿りつゝあり

3 機械等作指導

和紡機械及び稀毛機の一部に改良を加へ本年にて試作を行ひ當業者に指導して工業化せり

4 機械施設指導

機械業界の復興と相俟つて糸染及び織物整理設備の充實を圖り着々完備せり

5 其他當地指導

(一)、撚糸ラップ色染について

(二)、綿糸用精糸の漂白について

(三)、和紡機械及毛織機械の組立及据付けについて

(四)、麻芯地の整理法について

(五)、機械工場の完備！市内民家を借入れシャフト工場、モーター！設置基礎工事自費工事等資材の入手難を克復して完了せり

(六)、機械の据入！前述工業試験所設備の一部を石川工業試験場に保管中に付之が機械の復設組立調整に指導せり

(七)、其他機械据付について

二 試験

1 有毛マフラー

本試験は貯蔵力綿糸の撚角と撚度を変化せしめ織せるものであつて本織の完成に依り各綿糸に適用し家内製品として内需、輸出向製品として商品たらしめんとするものである

巾	一二吋	仕上巾	一二吋一枚	仕上長一、三〇米
一時間の織度	一三、五羽			
経糸の番数	地経	一七五羽	耳	八羽
	毛経	一七五羽		
総経糸数	地経	三六〇本	耳糸（両耳にて）	三二本
	毛経	三五〇本		

引込織

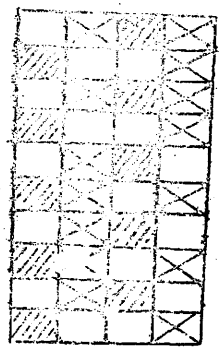
地經　絹糸　紬通一本　ゆき通二本
毛緯　同　一本　同　二本
耳　同　二本　同　二本

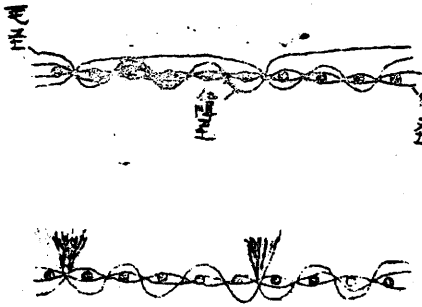
緯糸密度　一時間　二〇本

使用原料　地經糸　生　糸二十一中一〇本　合撚
毛緯糸　スフ糸　一〇番單糸
緯糸　生　糸二十一中一〇本　同

組織

毛緯
地經
毛緯
地經





2 眞綿紬紡糸法の改良試驗

一等酸に替る二三等酸が國內需用の必然性あるに鑑みて從來の眞綿紬の紡糸法に改良を加へ軍炭酸曹達に替る粗紡糸及紬糸の品質向上を圖ろうとする

3 粗紡糸及紬紡法

(一) 供試糸は軍炭酸曹達に替る炭酸曹達、木灰汁を使用す

(二) 液量は乾繭に對する一〇〇倍量とし使用灰は%溶液とする

(三) 炭酸曹達は前處理品、木灰汁はポーメー度浸液を原液とする

(一) 試驗　(單位%溶液)

重炭酸曹達	炭酸曹達	木灰汁
〇、〇五	〇、〇五	二
〇、一	〇、一	四
〇、一五	〇、一五	六
〇、二	〇、二	八
〇、二五	〇、二五	一〇
〇、三	〇、三	一二
〇、三五	〇、三五	一四
〇、四	〇、四	一六
〇、四五	〇、四五	一八
〇、五	〇、五	二〇
〇、五五	〇、五五	

灰汁一以上の液にてみたしアルカリ〇〇分離せる眞綿を比較せるに炭酸曹達は〇、〇五%、炭酸曹達は〇、一五%不灰汁は一〇%を各々良とし光澤、手觸に於て木灰汁

のものの優れしも色彩に於て鉛灰色を呈す。紡績は他れも大差なし

第二試験

次に炭酸曹達及木灰汁の混合溶液にて行ふ

（單位％溶液）

品目	炭酸曹達	木灰汁
一	〇〇二	一〇
二	〇〇四	一〇
三	〇〇六	一〇
四	〇〇八	八
五	〇一	六
六	〇一二	四
七	〇一四	二
八	〇一五	二
九	〇一六	二
十	〇一八	二

試験一番より七番迄は力価一力八度Cにて一〇〇分の煮解を行ひたるものとし一〇番迄を八〇分とする

炭酸一以上の番号を比較せるに六番、十番のものの色彩手觸共に紡績等に於て良好なり

結果一番炭酸曹達に替るに紡績としては炭酸曹達木灰汁の併用は極常なる溶解法により重炭酸曹達以上の成績を挙げて満足と認めたり

4 手紡糸用原料繭煮解の改造法

角繭糸より紡糸する法は古くから行はれてゐたが危険的に多の不合理と製品の不良及び能率を妨げ改良を必要としこれに関する実験上について研究を行いたり

第三試験

二、本の繭の数き釘を一米の間隔を距て埋め一角繭糸を巻廻する要領にて煮解を引伸し乾燥せし釘に掛け、この製品を以て紡糸を試みしに糸の方向は一定して良好なるも繭糸の密着多く煮解の成績の度合を示す

第四試験

第三試験の如く互の間隔を一米とし一方の釘を二本としてこれを一〇糎距てて装置し前試験同様の方法にて繭分の角繭糸に引伸して掛け乾燥後引伸して紡糸せしに紡度光沢白さ等共に優良なる品質の紡糸を得たり

能率に於ても今日迄よりも容易であり紡糸するに便なる形状を

なせるが故に糸質も多量に紡糸し得たり

結果一位上の成績により曾て試験の如く標準に横線を引きそ

れを原料として紡糸する方法を品質平均率両面に於て優良

と認め工業化に移せり

二、質疑答

ダブルベルベットについて　二〇件

紡織工場設備について　三〇件

有線ビロードについて　一〇件

有相ビロード製造について　二千件

ガラ紡紡織物について　三〇件

タオル製織について　八件

手紡糸について　一二件

手紡糸織物について　二〇件

メリヤス工業糸編について　五〇件

メリヤス機械について　三五件

組織分解について　二三件

機械除入について　二五件

絞染について　一二件

リボン織機について　一〇件

別珍について　三件

編織物について　八件

撚絞糸について　三件

毛織物について　八件

紡毛機について　三件

電氣ボイラーの水質について　三件

和紡機械及車輛機械について　二二件

壁織物の糸について　二件

絹の更紡法について　三件

織物検査について　一件

巻糸手紡糸について　四件

乾燥機械改良について　三件

ミシン件数の件について　一件

織物整理機械並立について……一六件
色染の件について……一三件
漂白の件について……八件
製織の件について……一四件
絹糸及その色染法について……三件
碼疊機械について……一件
海陸年桿羽二重桿綿について……五件
ガラ紡織物整理法について……三件
硫化染料黒染法について……二件
絹糸加撚等綿について……四件
ガラ紡糸綿糸法について……一二件
工場設備について……二八件
新機械の製織法について……三件
絹手紡糸織物について……三件
技術工職用糸染色について……二件
梳毛機械据付けについて……八件
紡績糸の染色工場及加工設法について……二件
染料及薬剤の販売について……二三件
其他の件……一三八件

機絹工業振興座談會の開催

本縣機絹工業界は海内たる材界の波に押され原料機械の入手難其他種ゆる難局に當面し就中古來の傳統を誇る海北地方の機業界は駸前に比し實に悲慘なる生産狀況にして之が再興は本縣の強力なる指導方針如何に係る事大問題にして特に原料の入手難打開に全力を注入せんと産工省彰不技官を招聘し座談會を開催し之が再興に萬全を期せり

機絹工業振興座談會記錄抜萃

開催日　昭和二十一年十一月六日

主催　越賀縣立長岡工業試驗場

後援　長岡工業會

越賀縣織物統制組合

越賀縣編帽製造組合

商工課長吉村吉貞氏挨拶

本日絹紡界の権威者影木技官殿の御來洲を得且又関係各方面の有力者の方々の御參堂を得まして絹紡工業振興座談會を開催する事は非常に欣快とする處であります。

思ふに吾國の現狀は日本新建設のために綜ゆる産業部門が一丸となつて民生安定の基礎を確立せんと努力してゐるのでありますが其の主軸を示むる絹紡工業は戰災者の衣料供給又輸出物資の對照として絹紡工業の再建が急務であることは今更申述べる迄もない事であります。

絹紡工業設備は戰災に依り破壞され立上るには仲々難関で原料部面に於ても資材部面に於ても且又食料事情に於ても實に至難であつて政府は之が打開策として努力してゐるのであるが本邦は幸にも戰災を免れ其の再建には惠まれてゐる環境にあり一日も早く此の難関を突破して復興せなければならないのであります。何と申しましても絹紡工業の再建は原料の入手如何は絹紡工業の盛衰を決める重大なる問題にて之が打開策として本會を開催せる次第

でありまして唯今より影木技官殿のお話を承り皆樣として忌憚なき意見を申述べ本日の會議を有意義に進行されんことを切望する次第であります。

商工省技官影木虎吉氏講演並に質疑應答要旨

私は唯今御紹介を得ました影木でございます。

本日は御當地有力なる絹紡関係の方々の御參集を得て忌憚なき御意見を拝聴出來得る機會を得ましたことを喜ひとする次第でございます。

今後再建日本の急いでゐるのは平和産業の再建にあり。昨年八月終戰となり日本國民は平和産業の再建に綜ゆる方面より関心を持つてゐるので當局としても非常に努力してゐるのであります。

人絹に於ては戰前迄英國製品を驅逐して世界第一位を示めてゐたのであるが軍需方面の要請により絹紡産業の七。八割迄消滅し現在の産業は二。三十年後退したのであるが數し原料に難があるが終戰後絹紡産業が日本再建經濟の鍵を握つてゐることは今申述べる迄も無いことであつて終戰後之が再建に總ゆる手を打つて來たのであるがあまり

かんばしくない良い結果を見ないのは遺憾な次第である。絹絲産業も鉱、石炭の三大産業であつて政府は資材其他の面に於て常に力を入れてゐるのであるから業者も力を入れて貰いたい。

現在に於ては衣料として南方へ輸出し日本で消化はしないのであつて輸出をせなければ必需物資の入荷は不可能である絹の消化に依り見返り物資を充足するのであるが絹糸も食料、鉱、石炭同様取扱はなければならぬ絹に於ても昨二十一年度の生産目標は國民一人當り〇・〇封度しかない今迄は一〇封度迄つてゐたのである絹がこの様な狀態ではスフ、人絹はおして知るべしである。

戰後日本は南洋より綿花が入つて來るのであるが之は日本へ送つて來るのではなく衣料として南洋へ出す爲である。洋毛に於ては近く相當量濠洲より入る事になつてゐるが見返り品として早く增産する事である。

絹糸に於ては現在ある生産設備を出來る丈拡張する事に於つてゐるが之とともに力く影

響日本は絹に依つてやつて行かなければならないので生糸は國内で使用する事も加工する事も出來ない狀態にて生糸のまゝ輸出しなければならない。

戰は戰爭中軍需で民需には拡向けなかつたのであつて今後廠の入る見込は立たず廠が入らなければフスに轉換して層廠でも入れゝば何とかなる事と思ふ生産狀態は實にあわれなものである。本年衣料切符を準備したのであるが、かゝる生産狀態では切符を出しても無品がなく來年度へ廻すより仕方ない事になつたのである。現在表面的には良い樣であるが内面的には實にあわれな狀態である。

政府では絹糸産業再建三ヶ年計畫を樹立してゐるが三年位では仲々出來ず十年位かゝるものと考へられるが已むを得ないものと思ふ。敗戰國民が戰勝國よりよけいに衣料を使用することは認められないのであつて其の點考へなければならないと思ふ。

業界からも見て政府は何をしてゐるかと思ふかも知れないが仲々思ふ樣に行かないのであつて日本の工業の主力は中小工業か示めてゐる關

係上今後の消化は仲々難関であるのでお方の工業試驗場の使命も重大であるので皆様の努力を切望し將來の見通しを大略述べ私の話を終る事にする。

（向影不技官駒蔚演中の數字は省略する。）

質疑應答

司會　岩崎技師工業試驗場

問　一般絹人絹代表　松倉糖一

ビロード　代表　松宮春彌

繊織物とかや代表　小林源太郎

絹スフ代表　中村誠二

特殊織物代表　林藤一郎

ガラ紡関係代表　月ケ瀬作藏

答　商工省影　木技官

一般絹人絹

問　戰後絹は純粉のわくにはめられたか絹糸に代る原料に如何

答　人絹で行く事になるかこれも生産があまり豊かでないから編に頃かえることも考へられる絹と人絹との交織も計畫してもよいわけだれにしても絹の生産がはつきり軌道に乗らなければ將來は出來かねる

問　食糧や石炭、薪等の生産には報奨物資を特配されてゐるのに繊物には何一つ出ないがこれでは工員を引付ける事は出來ないではないか

答　これは筆者からかねて要望かあつたどもつともな事で考へなければならないが運合事司令部のある將校が言つておられたのであるが繊物関係報奨を貰はなければ仕事をせぬと言ふ者はあり得ないではないか

ビロード

問　ビロード專用に加工した原糸やすでに機にかけてある糸も統制されたがどうするのか

答　関係方面へ事情を訴へ承認してもらへば當然ではビロードに使用

しても差支へないと思ふ

問　その糸は後一ヶ月位しかなく、ことに原糸は十ヶ年の十月に割當を受けたのであるから今後が非常にあやぶまれ四千人の織物業員は死活問題としてゐるどうか紐々なからも生産を繰續出來得るように御救濟願ひたい

答　日本人に必要な下駄の鼻緒としてビロードは必需品だが原糸が今のところ皇國産だからゆくゆくは絹糸を代用していかねばならないだろうまた鼻緒はビロードに限ると言ふ觀念も改められるだろう

麻織物と蚊帳

問　現在蚊帳組合で六巾織機二二八臺二巾織機一一六二臺一巾織機四八六臺を有してゐるが運轉は二〇三臺程度よりしてゐない平和時には麻で八十萬帳絹で百二十萬帳の蚊帳を市場へ出してゐた空襲の為め大都市の焼けた蚊帳はおびたゞしいもので戦災者の上からも蚊帳の生産は非常に大切だ。本縣は幸に戦災を免れ設備も食糧も勞力も豊富だから資材さへあれば何時でも増産出來る條件に恵まれてゐる

る原資材の直給を早急におねがひしたい

答　從來の生産實績はもとより必要なものかもしいが蚊帳は衛生上必要だから御期待に副ふ様にしたい。とにかく原糸の生産に力を入れてゐるからその場合に備へておいて頂きたい

絹・スフ關係

問　戦時中は軍需織物として紺木綿など生産してゐたが戦後一向に原料の割當がないが政府の生産計畫を聞かせてもらひたい

答　主として資材が漁網に廻つてゐるからいましばらくの御辛抱願ひたい漁網はいま非常に少いし極めて大切だからその次に衣料に向けたい昨春四月以降になるだろう

特殊織物

問　手織の内職者はいま千五百人もある。主に引揚者戦災者でありまた傷も操作もいたつて簡單だから暫定的措置として是非御援助願ひたい

答　今後は軍需織物に重點を置かなければならないが決して手織を無

視してはいない。スフの原料を一部手紡に頒したい

ガラ紡関係

問　紡やスフの綿糸が減んでゐるのでこれ等ガラ紡をやりたい希望者がたくさんあるから設備をかえる機会考慮たのみたい

答　ガラ紡の振興は現今部の承認を得なければならない。これは原料が豊富たから愛知縣を中心として全國各地に新しい許可をする方針

第三章　機械

第一　座談會

本場機械部は前機械工業庁の設備機能を承継して創立以来月より数回にわたる試験機械機械部としての内容の充実に努力せず故に設備機械の増加整備をなし工場長の補充に計りつゝ終戦後の停頓せる復興を促進し活潑たる世情に即応し且又資料貧りたる吾僚なる動機部の活躍を所き中小工業者の育成より民生産へのお手伝を指導し又食糧増産の為の長村の機械化、科学的知識の普及、最機具の改良論議の製作改善をおさ人と努力し来かり、然しながら設備機械及び機の為機械の振入及ひ之か修繕工場設備機械及工場増築等の資金は多数の人力を消費し且又各部の計画により計画が思ふようにならなかつた。停電対策を講じ又作業能率により量産の作業をおひ之か対策に新策を期し事務能率に対しても十二月二十六日商工省より出之内技員を相当通せる非下の商工事業に対して之か打開策として中央に於ける機械の商工業の設備を審しこれか運営

の方針又は場としての今後の指導方針にしようと講演者を除く

日　時　十二月二十六日　午後一時より

場　所　商工省工業試験場

演　題　鉱工業界等下の軍需動員について

講　師　商工省　出　又　内　技　官

場長より講師の紹介ありて次で商工課長の挨拶あり出又内技官の講演に移る。講演終りて休憩、更に座談会と進む。出席者は少しの欠席ありて関係、講師者が十三名講演要旨次の如し。

電力は既に入絶、炭、レーヨン等の企業地として又戦時も産業地として栄えてゐました。今後の日本の軍需産業復興は紡織工業の方面の外にはありません。

幸私が紡織工業が如何なるか、資材方面についての今のお話をすることとなり出来ますのでそれについての講演をさせていたゞきます。

扨て紡織業が重要なるものを強調？てキつて居りますが之も曾て工業は産業がありまして只今の表では千番目位のみで極度

伸びるかはお話することは出来ません

戦前は綿糸も相当ありましたが戦争之が解除をと戦争によつて相当減少して居り之を以前に引き戻すべく紡織業の復興作業を致して居りますが之について困つたことは日本の食糧供出問ち米の供出の際軍需省へ供出高を報告しました所日本の報告量と司令部の調査量とに三分の一程の開きがありまして紡織機も三分の一ようそでは無いかと思はれ、之は日本人の報告が少なく米国人は過多に報告が多いのであります。

又紡績の方でも輸出を見込み原綿等相当量用ひてありますが本年の計画によて三分の一しか進行してゐない事です。設備としてスフ、人絹、日産一六千屯としても一億千万円位計画してもらいたいと思つて居ります。其他に於ても相当ですが紡績は新しく操作することとか出来ず現在の設備を修理補強して行くのが主眼となるのです。

今後資材は指定生産により資材が流されるので現在の工場地方の上層

が原則として行ひ度き事能ではあり得なくなつたのです。勿論官吏に官ンては経済省令第五条の二第二項別に官吏をおくことは安定部に申出めればよいのであります。二十二年度の第一、四半期官チケットは工場で切り中央で全部が又に中央で分配を地方庁工局で切るのはわかりませんが今後の各省技術員は二十二年の事業官吏の豊富長となり限られた資材で生産する技術員が必要となつて来るのであります。

又賃金の問題ですが大部分の工場に於ては、なつた為にこれわれ生産して居ないのですから賃目で動き廻りをへ市場に生産しておれば解除になることがあります。但度も申しますが要定的の場合のないのが一番問題です。三つ資料を集めて三つとも合つたことがなく統計的のかみ合わと謂ひますが統計がなつてないのです。

今後の政策は迅速に見管の切を生産する者が成功するのです。戦時中に飛行機の製作技術に於ては科学の水準にあつたのが現在面場の如き試に今年前の事業技術の如きものを考えと手強しの製造機械

術に劣つてゐるものが多く時計等に於てもスイス製品に自動的にゼんまいが独るものがどんどん生産されて居ります。

終戦後の兵が帰国の時に兵出身者は各工場の土を本国より日本の産業の再興を計つてゐる様な次第で誠に科学的に管人で居ります。何卒飛行機等の製作技術を民需転換に応用して物和其他の工業に盡力し出来に努力して戴きたいと思ひまして私の話を終ります。

原稿の要旨次の如し

一、戦前の配給

正式に計文を受けたものに資材が流れ生産者が領書を以て甲請する

二、(イ)作業の資材配給について

十月迄は各部で以後はコークス(三割)一部制限せられ結局は工場別に配給

三、資材の割当について

中央官庁は中央で地方官庁は地方庁工局出張所各庁ごとに於て割当

をなす

四　工業經營について

勞働者が工場であつてもどんどん生産に從事して居れば能率が[illegible]がれるものがある出生産能率增進、概ねフーリに使用して行かねばならぬ

五　職の產業廳を設るについて

物資の斡旋見通しにより生産品の選定をなしその筋の指導者が當局へ具申せられてゐられることを述べられてその發展に努力して戴きたい

六　資材確保について

商工會議所を設置し組合に於て互に資材を交換して不足なる所を補つて技術の向上を圖り又無の資材を確保してもらたい

七　物資の斡旋について

各官廳について各工場が需工廠で創し器具部品等機関となつ

であるので之については當局を受けるものが個々に努力し生産品は品質の良い物をつくり能率を上げなくてはならぬ

八　中小工業者の銃後の指導について

直接部門の下受けをする者に斡旋せられ中小工業者の範圍は確定して無いが工場の生産能力によつて即ち全體生産の一部の生産者には直接に以下は中小工業者の出張所にまかせ。が計する者に資材を流して鑛物業者に廻すのである

九　電力關係について

電力の不足は火力發電が出來るに基因し火力發電に必要な石炭が不足して居り九州の炭坑は戰時中殆ど廢業して居り筑豊炭坑は坑道が狹く運藏量が少く北海道は量があるが勞働力が少く冬期に入りたる爲輸送が困難で結局人力の補充と設備の改善にまたねばならない

十二　委託賃貸

戰時中彦根經濟專門學校及長浜商業學校が工業學校に轉換されて年度再度商業學校に復

海軍致しましたる関係上學科は教授出來得るも實地に於てはそれをなす設備無く戰時中は學徒動員により各會社等でそれぞれ現場實習にてそれを補ひしが終戰後は該實習も出來得ず新入、低學年生は免角そのまゝに社會へ出しても理論のみにて實地の經驗無くて社の中堅となるべき者かそれではとの事で本場機械設備を利用又本場職員がこれの實地指導に當りたり

專門學校　二件　延人員　十名　延日數　三十日

中等家校　二件　延人員　二十六名　延日數　六十日

第三　作業狀況

クレーン据付　機械部シャフト工事機械修理

機械部設備機械整備　起工式記念品の製作

第四　依頼製作

和紙機製作　二件

建築用金具製作　三件

工具製作　七件

直線機部品製作　二件

ブーリー加工　三件

旋盤用部品製作　三件

シャフト溝切り　三件

長機具用部品製作　七件

モーター用レール仕上　二件

製粉機修理　二件

インポリユートカッター研磨　三件

ラチエットホイール製作　三件

木工プレーナー刃修理　六件

サイドカッター研磨　一五件

第五　工具機械貸與

プレーナー　二件

ステレッチ　二件

マイクロメーター　三件

加工程度標準見本……一件
電氣ボール盤……二件
自動計……四件
摺合せ定盤……二件

第六　試驗研究指導

一　和紙機の改良其他

材質各別試驗……九件
引張試驗……一三件
硬度試驗……八件

二　實地指導

硬化鑄鋼鑄物加工法指導……一件
和紙機組立指導……三件
直線動作裝置指導……四件
ジュラルミン鑄物硬化指導……一件

第七　翻譯摩答

機械工具使用法について……七件
工場シャフト工事について……八件
製材用機械について……五件
ゴム擦接用油について……二件
擦入用油について……二件
代用材料使用について……五件
作業用具の件について……二件
鍋鑄材チケット制度について……三件
工場運營法について……六件
機械精度檢査について……二件
機械操作について……一六件
齒車動作について……四件
作業機械組合せ……一二件
內燃機用ノッズルについて……二件
機械据付について……八件

動力機故障について	四件
油脂引火點について	二件
第八　種類其他	
メリヤス工場作業及機械	四件
シャフト引掛工場機械	二件
製材木工場機械設備	二件
民修安業作工場業作工程	二件
機械査定	二件

現下の産業界の狀況より見て和紡糸の製造愈々盛となりつゝあり因つて和紡機の改良を行ひ廉價にして品質良好の和紡糸の多量生産を行ひ和紡糸生産の發展を助勢せんとす

方法―從來の和紡機を、像りて之により試驗を行ひ改良を加へんとす

從來の和紡機のスケッチを行ひ紡作圖を作製―和紡機を製作―試運轉を行ひ之が飯野の發見に努めたり

結果―目下繼續の原糸が糸になるまでの距離とのつり合ふすいの

評節を自動的に且連續して行ふの要あり。安價に製作し齒車の對久力を減殺し、齒車の騒音防止を行ふの必要あり。距離線を強すに多大なる動力を要するにより現在の回轉動力傳達法を改良せんの要ありと認めたるにより之が改善に努めつゝあり。此の試驗を二十二年度に於て引續き行はんとす。成果發表の域に達せず。

簡易、安價な、表面硬化法試驗―最適具合に之を使用―長時間に耐久力ある物を製作せんとするに從來の方法より更に短時間で浸透量の大なる檢試驗せんとす。之が試驗の準備を行ひしが燃料の不足資材の關係等により一時中止す。